



～大迫のまちなみを未来へ～
大迫地域まちなみ整備検討委員会

大迫地域のまちなみを未来へ残し、活用していくことを目的に設立された「大迫地域まちなみ整備検討委員会」の取り組みを紹介します。

【問い合わせ】大迫総合支所地域振興課(☎41-3122)

大迫地域は、遠野街道の宿場町として栄え、特に仲町地区には、宿場らしい古くからの建物が残されています。現存する建物や景観の保存を図りながら、落ち着いたたたずまいを未来への遺産として活用するため、大迫地域の関係団体・機関、市や商工会議所などで構成する「大迫地域まちなみ整備検討委員会」が令和3年6月に設立されました。

同委員会では、(仮称)大迫地域まちなみ整備計画の策定に向けてワークショップなどを開催しているほか、五つの部会を設置。それぞれの

分野でさまざまな視点から、大迫地域のまちなみ整備について検討を進めています。

各部会の主な役割

- ・研修部会…おもてなし勉強会、歴史勉強会、まちづくり講演会などの開催
- ・景観部会…稗貫川、中居川の整備、遊休資産の清掃、まちなみ(外観)の検討など
- ・マネジメント部会…飲食店マップの作成、スタンプラリーの開催など
- ・市日部会…新たな市日の開催など
- ・遊休資産部会…遊休資産の把握、所有者の意識調査など

歴史ある建物の調査

令和2年度に大迫町仲町地区6件の建物の基本調査を行い、建物の特徴や構造、建築された年などを調べました。



▲基礎調査を行った建物の一部

建物の現地確認

令和3年度に仲町地区に現存する建物の現地確認を行いました。商店や家屋のほかに、蔵(土蔵)も数多く残っていました。



▲検討委員会が行った現地確認の様子

ワークショップの開催

大迫地域のまちなみ整備に関するワークショップを令和4年度に6回開催。本年度は5回の開催を予定しています。検討委員会の構成員のほか、地域の若者や富士大学院生にも参加いただき、▶地域に何が必要か▶どのような観光まちづくりを目指すか▶組織づくりをどうするか▶今後取り組むべき主な活動一などについて話し合いを継続しています。

ワークショップで出た意見などを踏まえ、同

委員会では本年度中に(仮称)大迫地域まちなみ整備計画を策定する予定です。



▲ワークショップで議論を交わす参加者



宮野目小学校6年
小田島 爽士 さん



東和小学校5年
及川 万葉子 さん



八重畑小学校6年
小田代 純怜 さん



桜台小学校5年
千葉 佳杏 さん

想像と現実

非核平和学習会に参加して
核兵器とはどれくらい危険なものなんでしょう。
ニュースなどでよく耳にする核兵器が、使ってはいけないものという感じが知りませんでした。だから原子爆弾が落とされた広島に行き、その時の被害とこわさを見て、聞きたいと思いました。

資料館で見た「人影の石」は、人がすわっていたところだけ、熱があたりず人のあとが残った物です。こんなことが一しゅんで起こったことを知り、こわくて足の力がぬげそうになりました。

式典の中でなぜ「自分だけが生き残ってしまったんだろう」と考え悩み苦しんだ想いを知り、ぼくも一人だけ生き残ったとしても同じように考えただろうなと心が苦しくなりました。

ぼくが、日常生活を送られること、これだけでも幸せなんだと、感じさせられました。

二度と核兵器を使わない、戦争をくり返さないために戦争、核兵器のこわさを、次はぼくがたくさんの人に伝えていきたいと思っています。

広島に行つて分かったこと・感じたこと
「目を開けて、目を開けて」
子どもの名前を呼び続ける半狂乱の母親
1945年8月6日たった一つの爆弾で多くの人たちの命がうばわれました。

資料館に行つて、平和だった日常が、いつしゅんでうばわれたことがとても悲しいことだと思いました。

平和祈念式典では広島市長などの話を聞いて、あらためて平和の大切さを感じました。たくさんの方が平和の大切さを折っていました。わたしがこれまで体験したことのない雰囲気でした。

広島県に行つて平和の大切さや原子爆弾のおそろしさが分かりました。

今は、ウクライナとロシアが戦争をしていて、すべての人が幸せになつていませぬ。また原子爆弾が使われてしまふかもしれない。

平和は身近にもたくさんあります。平和を自分だけではなく、他の人に伝えて世界中の人々が安心して暮らせる未来にすることが大切だと思つています。

非核平和学習が、命の大切さについて考えさせられる貴重な経験になったと思います。

「原爆の子の像」は、唯一子どもの力だけでつくつたもので、私と同じ年ぐらいの子もたちが佐々木禎子さんの事を広めるためにがんばつたのに、私はこれまでだけのために、そこまてがんばつたことがあつたらうかと、自分が情けなく感じました。

資料館の「頭はつが抜けた姉と弟」の写真の顔には笑みがなく、なぜこんなことになつてしまったのかという悲しみと、いかりをどこにぶついたらよいのかわからず、あのような表情しかできなかつたのではないのでしょうか。

岩手に戻つてから、原爆が落とされる前にどんなことがあつたのかを知るために本を読みました。原爆を落とされる前に戦争をやめていたら、亡くならなくてもよい命がたくさんあつたと思うと、くやまれてなりません。

核兵器は、人々の体や心に大きな傷を残す、あつてはならない物だということを、伝えていくことが、私の使命だと思ひました。

テレビなどで「核を絶対に使用してはいけない。戦争は悲しいものだ。」と聞くたびに、「私の想像する核や戦争のイメージは現実にあつていないのか。」と、ぎ問に思うことがありました。学習会に参加したのは、広島に行き、目で見て考えを確かめたかったからです。

平和記念公園の原爆の子の像は、白血病になりなくなつた女の子の友達が集めたお金で作られたものと聞いた時、「私と同じくらいの子も達が、こんなりつばな像をつくるなんて。」強い思いがあれば、子どもでも大きなことを出来るのだと感心しました。

平和記念資料館の展示は想像より悲さんで、私は声を失い、見ているうちに気持ち落ちこんでしまいました。

体験した核と戦争の現実、想像していたよりずっと悲さんで、本や像では伝えきれない部分があると感じました。

核兵器を絶対に使つてはいけないことを多くの人達に伝えていきたいと思ひます。